

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、経営方針に掲げる「エネルギー関連事業の拡大」「グローバル化」に重点的に取り組んでおり、2014年度を、前年度に掲げた「攻めの経営元年」からさらに一步踏み込み「攻めの経営拡大」の年と位置付け、産業インフラ、パワーエレクトロニクス機器を中心とした収益力の強化および海外事業の強化を推し進めています。

当第1四半期は、当社を取り巻く環境が国内外において緩やかな回復基調で推移するなか、前年同期に比べ増収増益を達成しました。特に利益面では、第1四半期として初めて黒字化を達成した前年に引き続き、営業利益、純利益とも黒字を確保し、収益力強化の取り組みが着実に当社グループ内に浸透しつつあります。なお、この決算を踏まえ、上半期の業績予想を上方修正しました。

引き続き、今年度は「業務品質の向上」に注力し、社員一体となって一層の収益力の強化に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年8月

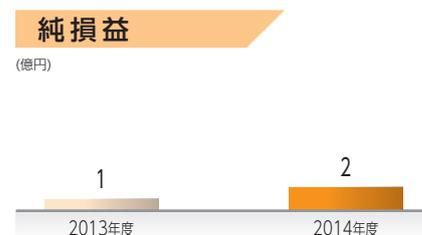
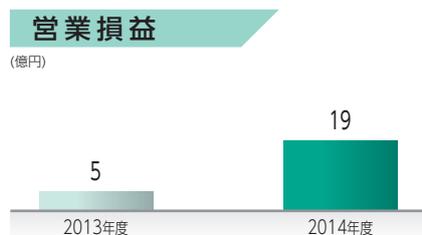
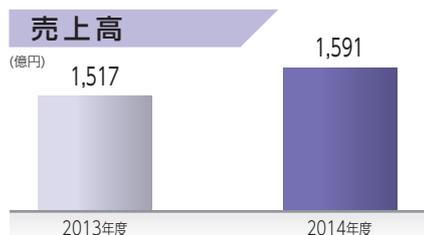
富士電機株式会社
代表取締役社長

北澤通宏



第1四半期決算

前年同期に比べ増収増益を達成しました。



セグメント別状況

	売上高 (億円)			営業損益 (億円)		
	2013年度	2014年度	増減	2013年度	2014年度	増減
発電・社会インフラ	241	266	25	△6	△2	4
産業インフラ	289	322	33	△18	△17	1
パワーエレクトロニクス機器	361	371	10	△2	2	3
電子デバイス	289	314	24	8	20	12
食品流通	319	301	△19	32	26	△6
その他	142	145	3	4	5	0
消去または全社	△124	△127	△3	△14	△14	0
合計	1,517	1,591	74	5	19	14

売上高

発電・社会インフラは、国内の太陽光発電システムを中心に増収となりました。産業インフラは、国内外で変電分野・鉄鋼分野向けを中心に増収となりました。パワーエレクトロニクス機器は、国内外におけるインバータ・サーボ、受配電制御機器の需要増により増収となりました。電子デバイスは、産業分野向けパワー半導体の需要増により増収となりました。食品流通は、コンビニエンスストア向けコーヒーマシンの需要減に加え、消費税率引き上げに伴って自販機需要が減少したこと等により減収となりました。

営業損益

売上高・生産高の増加に加え、コストダウン等の体質改善効果により、前年同期に比べ増益となりました。

上半期・通期業績予想

第1四半期決算を踏まえ、上半期業績予想を上方修正しました。通期業績予想は前回発表(2014/4/24)と変更ありません。

	上半期 (億円)				通期 (億円)	
	2013年度 (実績)	2014年度 (4/24予想)	2014年度 (7/30予想)	増減 (7/30予想-4/24予想)	2013年度 (実績)	2014年度 (予想)
売上高	3,285	3,295	3,400	105	7,599	7,800
営業損益	30	25	45	20	331	380
純損益	3	△20	3	23	196	230

※前提為替レート 1ドル=100円、1ユーロ=135円

2014年度の取り組みについて

セグメント別の取り組みの詳細は、同封の「富士電機レポート2014[抜粋版] (事業概況—2013年度 業績、2014年度 重点施策)」をご覧ください。

第138回 定時株主総会を開催

- ▶開催日時：2014年6月25日(水)
10:00~11:28
- ▶開催場所：ウェスティンホテル東京
- ▶出席株主数：403名



6月25日、第138回 定時株主総会を開催しました。当日は403名のご出席を賜り、第138期(2013年4月1日~2014年3月31日) 事業報告、連結計算書類および計算書類の内容ならびに

会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果を報告しました。

決議事項につきましては、下記の通りご承認いただきました。

決議結果

第1号議案 取締役9名選任の件

本件は、原案どおり右記の9氏が取締役に選任され、それぞれ就任しました。黒川博昭、鈴木基之、佐子希人の3氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

第2号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案どおり篠崎俊夫氏が監査役に選任され、就任しました。

※当社ウェブサイト(株主・投資家情報の「株主総会」)において、候補者別の賛成割合などを開示しております。

(<http://www.fujielectric.co.jp/about/ir/index17.html>)

取締役 監査役

株主様のご承認に基づき、次の役員体制をスタートさせました。

代表取締役社長	北澤 通宏	常勤監査役	篠崎 俊夫
代表取締役	奥野 嘉夫	常勤監査役	石原 敏彦
社外取締役	黒川 博昭	社外監査役	伊藤 隆彦
社外取締役	鈴木 基之	社外監査役	佐藤 美樹
社外取締役	佐子 希人	社外監査役	木村 明子
取締役	安部 道雄		
取締役	菅井 賢三(新任)		
取締役	江口 直也(新任)		
取締役	松本 淳一		

トピックス：研究開発の取り組み

当社は、「エネルギー関連事業の拡大」に向け、パワー半導体、パワーエレクトロニクスなどのコア技術の拡大・強化を研究開発方針のひとつとして掲げています。今回は、このコア技術を駆使した製品開発の成果と、研究開発体制強化のトピックスをご紹介します。

次世代の省エネを担うSiCパワー半導体を搭載した パワエレ機器の市場投入

当社は、高耐圧・低損失化を実現するSiCパワー半導体の開発と、これを搭載したパワエレ機器の製品化に注力しています。

2013年10月、業界に先駆け、これまで難しいとされてきたSiCパワー半導体の6インチ生産ラインを構築、本年8月には、SiCパワー半導体を適用したメガソーラー用パワーコンディショナを発売しました。本製品は、発電した直流の電気を交流に変換する際の電力損失を大幅に低減、変換効率98.8%を実現するとともに、従来機種に比べて20%小型化しました。



SiCパワー半導体を適用した大容量パワーコンディショナ SiCパワー半導体

開発強化に向けた新棟の建設

当社は、国内の3拠点に研究開発棟を建設することを決定しました。この新棟建設により、分散している技術開発部門の人材や情報を集結し、研究開発体制を強化することで、コア技術であるパワー半導体、パワーエレクトロニクス、熱技術を駆使した競争力のある商材の研究開発を加速・推進していきます。

- ▶投資総額 約130億円
- ▶建設地 ・全社 研究開発棟(東京工場)：2015年10月完成予定
・半導体 技術開発棟(松本工場)：2015年3月完成予定
・器具 開発棟(吹上工場)：2014年11月完成予定

ホームページ のご案内

▶▶▶ <http://www.fujielectric.co.jp/about/ir/>

当社ホームページの株主・投資家情報では、決算などの最新のIR情報や富士電機レポートによる事業紹介など様々な情報を掲載しています。今回、当社をより一層ご理解いただけるよう、事業概要・業績推移・経営計画等を掲載した「個人投資家の皆様へ」のページを刷新しました。

「株主・投資家情報」検索はこちらから ▶ 富士電機 IR 検索



本報告書の将来についての計画や戦略、業績見通しに関する記載は、作成時点において当社が合理的と判断した一定の前提に基づくものであり、実際の結果とは実質的に異なる可能性があり、当社はこれらの記載のうち、いかなる内容についても確実性を保証するものではありません。